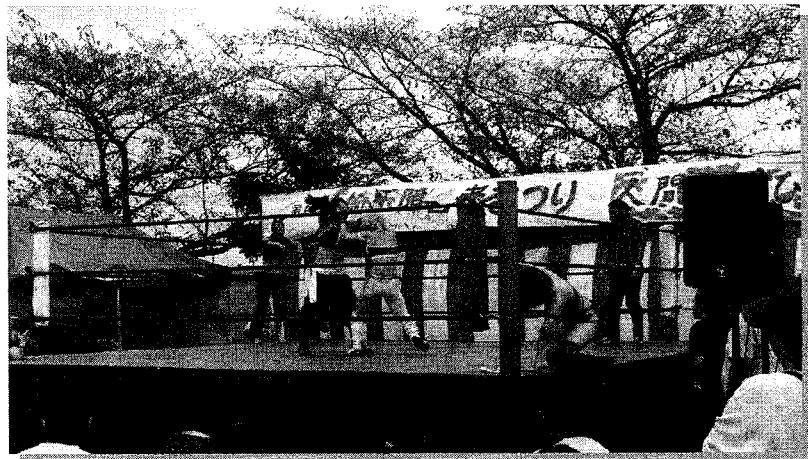


**SSC**  
埼玉県障害者社会参加  
**セ・ジ・タ・タ・ヨ・リ**

令和元年 12月 30日 123号

編集  
埼玉県障害者社会参加推進センター  
〒330-8522  
県障害者交流センター内  
TEL 048-825-0707  
FAX 048-825-3070  
メールアドレス  
HPアドレス  
発行  
〒330-8522  
価格  
発行日  
10日・20日・30日



# 第40回 埼玉障害者まつり

## 共に生きる新たな一步

障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

國松 公造

10月6日、雨空を気にしながら、テントの立上げや模擬店の出店準備を急ピッチで済ませた頃、第40回埼玉障害者まつりが県障害者交流センターの屋内外で始まりました。

『ひとりぼっちをなくそう』から  
40年、共に生きる新たな一步！

今年度のテーマは、この40年間の様々な成果とともに、未だに差別や優生思想がはびこる風潮は何も変わっていないことを押さえ、共生社会をめざし、新たな思いで

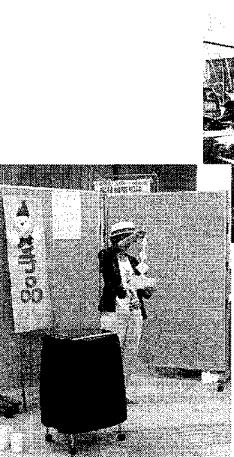
頑張って行こう！という気持ちを掲げました。少し小降りになり、中央ステージでは見沼太鼓の大音響が鳴り渡り、いよいよオープニングです。主催者を代表して田中一実行委員長の開会あいさつ、県障害者福祉推進課長はじめ来賓あいさつがありました。その後、朝鮮学校生徒による朝鮮舞踊やコールス、特別支援学校の生徒と親による太鼓演奏、春奈あきとアラビーナによるベリーダンスと雨の中で続き、シトシトと雨も続き、女子プロレスの時間が迫る中、急きよ会場を屋内の体育館に移す話もありましたが、そのまま続行。女子プロレス団体「アクトレスガールズ」がリング上に登場しました。

女子プロレス人気はすっかり定着し、追っかけも多く、試合が始まると、選手の技やアピールに声援が飛び交いました。いつの間にか雨が上がり、リング上のぶつかり合いも熱を帯びてきます。セミファイナルのタッグマッチでは、攻守入り乱れて場外乱闘もあり迫力満点、観客は釘付けとなりました。



が締まつたレスラーの背筋を照らし、眩しいショートなりました。この日、中央ステージを取り囲むように団体や施設、作業所など、一緒に障害者運動を取り組む人たちが、カレーライス、牛丼、ヤキ

ソバ等の出店で、客への呼び込みも霧雨氣を盛り上げました。



「豊かな暮らしで向むけ」

ローリング、フライングディスク等を次々と楽しみ、来年のパリンピックの正式種目になつたボッチャに人気が集まりました。

楽しさだけでなく、テーマ企画として、障害者問題を真正面に据えた大討論会がホールで開かれました。

きようされん埼玉支部の細野浩一氏が、障害者権利条約と暮らしぶり

氏は40年前に養護学校義務制を実の課題について講演しました。細野

現させたが、教委側からの押ししきになつていた「就学指導委員会」

「学支援委員会」に改善されました

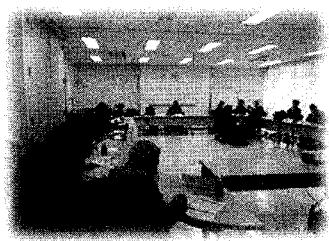
が、対象児童の拡大により特別支援学校のマンモス化、過大過密状

態が進み、教育環境は後退していました。特に教室不足は深刻で、

教室内をカーテンで仕切つたり、音楽時間はなるべく音を出さない

よう、スペースがなく跳んだり跳ねたりしない体育などを余儀なくされてきたと話されました。

暮らしの場を巡っては埼玉発の「暮らしの場を考える会」の取り組みが全国各地に飛び火し、全国組織結成となり、入所施設への待機者問題がクローズアップされ、みぬま福祉会の「はれ」の開所に繋がりました。今、「支え手」不足、「運営費」不足を解消しながら「自己決定の場」に引き上げる実践が求められています。つまり「旧来型収容施設」からの脱却が決定的だと語りました。シンポジウムではグループホームで生活する相田さんは、「積極的に生活をつくるようになってきた」と話しました。フロア発言では、知的と重度の肢体障害を併せ持つ我が子の卒業後の進路先がない中で、株式会社の参入で、手のかかる子は拒否されたりし、質の低下が心配だと訴えました。



**令和元年度  
埼玉県障害者協議会加盟団体  
代表者会議報告**

令和元年度加盟団体代表者会議が 11月 16 日（土）埼玉県障害者交流センター内で開催されました。この会議は加盟団体のリーダー研修と団体間の情報交換を図る為、平成 30 年度から始まりました。当団は研修会講師に、埼玉県地域福祉推進委員会委員長である、文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授の中島修氏を迎え、「第 5 期埼玉県地域福祉支援計画の概要についてお話しいただきまし た。これまで高齢者・障害者・児童・生活困窮者など、課題を抱えた相談者に對し、行政は個別の相談窓口でそれぞれ対応していました。しかし公的サービスだけでは対応できないケースや、制度の狭間にあるケース、年々複合し複雑化している課題等（80代の親と働いていない 50 代の子が同居している世帯「8050」、介護と育児に同時に直面する「ダブルケア」など）がありました。それらの課題に対応するため、市町村内で相談者や相談機関からの様々な相談にワンストップで対応・各機関の調整を行うトータルサポート担当を設け、各福祉分野の縦割りの支援ではなく、総合的に支援を行う体制を促進するといふ」と題した講演を開催し、埼玉県の状況や地域福祉支援計画の概要についてお話しできまし た。

質疑応答では中島准教授と参加者の間で活発な意見交換が行われ、研修会終了後は、各団体がそれぞれ直面している課題や活動内容を語つて情報交換を行い、代表者会議は終了致しました。

令和元年度

個別の相談窓口でそれぞれ対応していました。しかし公的サービスだけでは対応できないケースや、制度の狭間にあるケース、年々複合し複雑化している課題等（80代の親と働いていない 50 代の子が同居している世帯「8050」、介護と育児に同時に直面する「ダブルケア」など）がありました。それらの課題に対応するため、市町村内で相談者や相談機関からの様々な相談にワンストップで対応・各機関の調整を行うトータルサポート担当を設け、各福祉分野の縦割りの支援ではなく、総合的に支援を行う体制を促進するといふ」と題した講演を開催し、埼玉県の状況や地域福祉支援計画の概要についてお話しできまし た。

【埼玉障害フォーラム拡大学習会】

ない、とのお話をしました。

**「障害者権利条約パラレルレポート～障害のある人の「働く」を支える仕組みと現状～」**

学習会の主題は JDF 障害者権利条約パラレルレポート特別委員会委員である赤松英知氏が講演し、パラレルレポートの状況、「県教育

令和元年 11月 15 日（金）埼玉県障害者交流センターホールを会場として学習会が開催されました。

会の初めに、10月 12 日に関東から東北にかけて上陸し、埼玉県内にも甚大な被害をもたらした台風 19号による障害者支援施設の被害

委員会における今年度の障害者雇用推進のとりくみについて」を埼玉県教育総務課障害者雇用推進担当主査の新田直人氏が、「障害のある人たちの表現活動」をみぬま福祉会立場から、障害者の働く場について

社協会会长の長岡洋行氏から緊急報告がありました。

川越の被災施設の被害が大きく、利用者の避難生活が越年する見通しであることや、被災施設と玉県の取り組みについて、中島准教授は詳細な資料を基に明快な口調で語られました。

学習会参加数は 63 名、参加者は熱心に講演に耳を傾け、学習会は盛況のうちに終了しました。



**昭和 54 年 3 月 10 日 第 3 種郵便物認可 ssc8038 号**

**埼玉県障害者協議会加盟団体  
代表者会議報告**

の親と働いていない 50 代の子が同居している世帯「8050」、介護と育児に同時に直面する「ダブルケア」など）がありました。それらの課題に対応するため、市町村内で相談者や相談機関からの様々な相談にワンストップで対応・各機関の調整を行うトータルサポート担当を設け、各福祉分野の縦割りの支援ではなく、総合的に支援を行う体制を促進するといふ」と題した講演を開催し、埼玉県の状況や地域福祉支援計画の概要についてお話しできまし た。

質疑応答では中島准教授と参加者の間で活発な意見交換が行われ、研修会終了後は、各団体がそれぞれ直面している課題や活動内容を語つて情報交換を行い、代表者会議は終了致しました。

【埼玉障害フォーラム拡大学習会】

が最も有効だったこと、行政からの情報提供より、事業所間での情報ネットワークが強かつたこと、報道がまだ行政や市民に浸透していない、とのお話をしました。

# 社会参加推進事業への取り組み

埼玉盲ろう者友の会 副会長 藤本 信行

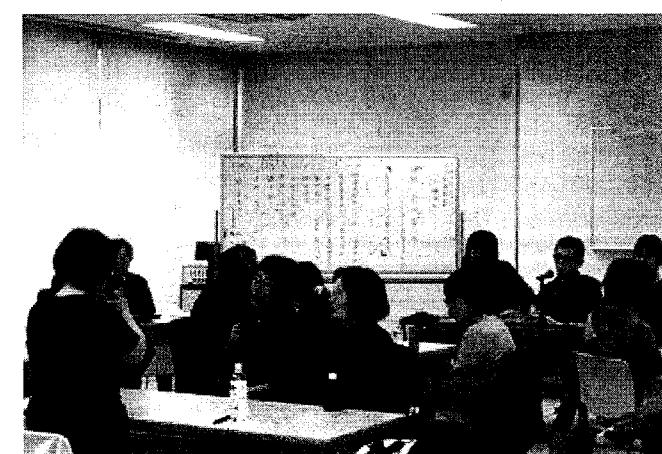
埼玉盲ろう者友の会では社

会参加への取り組みとして、盲  
ろう者の生活向上、障害の周  
知と理解を目的に勉強会と講  
演会を行っています。

まず勉強会はコミュニケーションの学習を月 1 回行っています。

中で独自性の高い「触手話・  
指点字」を取り上げています。  
触手話や指点字が学べるところ  
は、手話や点字が学べるところ  
よりも多いです。見えない、聞こ  
えない盲ろう者は触覚に頼るコ  
ミュニケーションの方法が必要  
になります。今は少し見える、聞  
こえる盲ろう者、新しいコミュニケ  
ーションの方法を学びたい  
盲ろう者、盲ろう者以外の会員  
や会員以外の方も参加しています。  
勉強会では参加している皆  
さんの笑い声や、「わかった」「伝  
わった」などの声もあり、楽しく  
学習しています。交流センター

ます。勉強会では盲  
ろう者のコミュニケーションの方法



へ来られる皆さんの中には、触手話や指点字で話す私たちの様子を見かけられた方も多いと思  
います。指先でのおしゃべりを  
まずは体験してみませんか？

次に講演会についてです。年に 1 回、外部の講師をお招きし開催しています。今年度は NPO 法人千葉盲ろう者友の会理事の星野厚志氏をお招きしました。星野氏は盲ろうの当事者で、星野氏の生い立ちから盲ろうになった経緯、千葉盲ろう者友の会の活動等を講演していました。友の会の組織についてや盲ろう者の登録者数など質問も沢山あり盛況の中で講演会を終えました。隣県の友の会の活動ならわかるのでは？と思議に思う方もいらっしゃるかと思います。しかし、私たち盲ろう者は隣県の友の会の情報を入手することが難しいのです。過去の講演会では、昨年は神奈川県の盲ろうの方を、一昨年は盲ろう児をお子さんを持つお母さんや支援している方々をお招きして講演会を行いました。毎年、会員以外の参加もあり嬉しく感じています。

盲ろうという障害はコミュニケーション、情報入手、移動の困難から閉じこもってしまう障害です。より多くの方に関心をもつていただき、交流ができることがあります。少しでも興味を持っていただいた方は、ぜひ勉強会や講演会へご参加ください。

社会参加推進事業

医療プロジェクトチーム

# 「がんと向き合うためには ～ろうのがん患者として～」



医療プロジェクトチーム 酒井 久枝

医療プロジェクトチームは、

医療機関等に聴覚障害者への理解を広めていく取り組みを進めてまいりました。その一環とし

て、9月29日（日）杉戸町生涯

学習センター・カルスタすぎと

にて「医療のつどい」を開催し、約85名の参加がありました。

まず、ちちぶ広域地域からの

「医療パンフレット」活動状況の

報告について、医療プロジェクト

チームより「サマーフォーラムin奈良」においてレポート

発表内容を報告のしました。「社

会参加推進事業」として「がん

ば聲」の代表、皆川明子氏を講師に迎え、標記のテーマで講演をいただきました。

皆川氏はご自身の身体の異変に気付いてから、検査・診



る壁」に触れ、聴覚障害者自身が安心して受けられる医療機関を整えていくよう考える必要があると強調されました。

具体的でわかりやすい講演の内容から、「言葉や情報に壁がある」という不安要素を無くすために、「医療専門性の高い手話通訳の必要性」「スタッフに対する手話の普及」という手話を語り、医療機関へ働きかける必要性を感じ、身が納得する治療法を決めたなど具体的な内容を話してくださいました。その中で聴覚障害者ががん治療を受ける際の不安材料として、聞こえないゆえのコミュニケーション障害と情報障害、そして治療法・入院環境など文化の違いを取り上げてくださいました。聞こえないために生じる障壁、そしてがん治療しながら「文化と言語の違いによ



【加盟団体活動紹介 第十二回】

# 公益社団法人 厚生車輛福祉協会



◆書無くして学び足り無くして  
行く

◆足らずところを頭で行く  
足るを知る者は富む

◆両足を断つて四輪で走る模範  
運転

◆残存機能活用は完全機能の乱  
用にまさる

**設立年**  
昭和 41 年

**会員数**  
120 名



会参加の機会が健常者と比較する不利な状況に置かれているのが現状である。

当本人は障害者及び高齢者の移動手段の振興と普及を図ることで、障害者及び高齢者の積極的な社会参加を促進して彼らの地位向上と心豊かな社会福祉の構築に貢献することである。

また地域社会の交通安全を図り弱者の安全移動の促進を図る。

この会の事業活動に賛同する者  
用にまさる

## 活動紹介

**発行会報誌**  
機関紙『足』

1・4・7・10 月（年 4 回発行）

○障害者及び高齢者の交通安全  
講習会

○移送サービス運転協力者講習会

○成年後見制度の普及活動

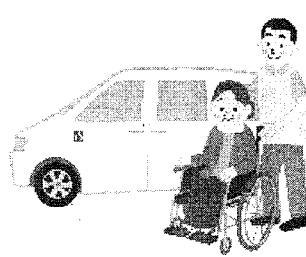
**目的**

**ホームページ**  
無し

我が国の障害者及び高齢者は、移動手段が制限されている

ことが多く就労や余暇活動と社

事業  
○障害者及び高齢者の研修旅行



【加盟団体活動紹介 第十三回】

## 公益社団法人 日本オストミー協会 埼玉県支部

オストミー協会埼玉県支部は、オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者）が安心して暮らせる社会を目指している、オストメイトによるオストメイトのための内部障害者団体です。

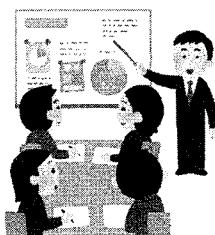
による、生活の質（QOL）の向上のためオストメイト等が互いの体験を共有化し親睦を深め、相互の協力により人工肛門・人工膀胱に関する正しい知識の普及と啓発を図る。

設立年  
平成10年7月

会員数  
290名（流動的）

会員対象  
オストメイト及び家族・関係者

### 活動紹介



『JOA彩の国ニュース』  
奇数月 年6回発行  
(他に本部報…同発)

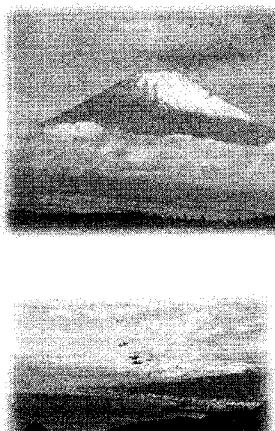
目的  
ホームページ  
オストミー協会埼玉県支部

オストメイト及び家族・関係者  
のセルフケア及び社会復帰等  
数の経つていない方や、その家  
　　オストメイトになつてから日  
　　らつています。

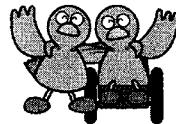
他に年間行事として研修旅

族の方が多く参加します。ストーマを持つことによる不安を話される方や、熱心に質問される方等さまざまです。新米オストメイトの質問や悩みに専門家や先輩オストメイトは自分の経験則や体験等を話します。初めて講習会や相談交流会に参加して、医師や皮膚・排泄ケア認定看護師等の専門家による講習会や相談交流会を実施している他、会員の当番制による電話相談等の業務を行っています。

オストメイトになつてから日  
　　らつています。



行（春・秋）・新春交流会・講習会場での業者による補装具展示等を行つて いるほか、会員相互の同好会として「おしゃべり会」「呑んべい会」「カラオケ同好会」も盛況活動中です。



# 新埼玉県知事表敬訪問報告

種村  
副代表理事大野  
県知事田中  
代表理事

2018.10.24 17:19

令和元年 10 月 24 日、埼玉県庁知事室内で、令和元年 8 月 31 日より第 61 代埼玉県知事に就任された大野元裕新知事に対し、埼玉県障害者協議会代表理事・埼玉県障害者社会参加推進センター長田中一・副代表理事種村朋文が表敬訪問致しました。

田中代表理事は埼玉県障害者協議会の活動内容や理念を説明し、大野知事は熱心に耳を傾けました。

また、大野知事に当協議会名誉会長就任のお願いを伝えると快諾され、就任承諾書にご署名頂きました。

## ＜賛助会員加入のお願い＞

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口 2,000 円 です。

入会をご希望の方は、右記の口座へお振込み下さい。

**特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会**

## ＜郵便振替＞

### 【口座番号】

00130-9-673233

### 【口座名称】

とくていひえいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人  
さいたまけんじょうがいしゃきょううぎん  
埼玉県障害者協議会

## ◇編集後記◇

令和の最初の年が間もなく終わる。昭和 28 年の戦後育ちであるが、昭和、平成、そして令和の時代を生きることになる。大災害と事故が起きた時代、一方で科学技術の進歩で社会が急激に変化をよぎなくされた時代。だれひとりもとり残さない社会であってほしい。

(田中)